

P-1 石巻北上町追波地区

2012年1月8日(日)

報告者名	金菱 清	被調査者生年	1945年(男)
調査者名	金菱 清	被調査者属性	無職
補助調査者	相澤 卓郎		

釣石神社の被害状況

大鳥居、社務所、神輿堂など境内の一切が流亡してしまった。しかしながらご神体である釣石本体はM9.0、震度6強の本震でも崩れず、より一層御利益の賜るものとして地域復興のシンボルとなっている。

震災前の年中行事

【春祈祷】平成21年1月11日

獅子舞が地区中を練り歩き、悪疫退散・無病息災などを願う。嘗ては役員宅に宿をとって休憩して、一日係りの行事であったが、諸行事簡素化の流れの中で、地区内を一巡して公民館で新年の祝賀会。

【春季例祭】(5年毎)平成21年4月29日

釣石神社神輿巡行(8:30-17:40)

釣石神社の氏子90名余を5つの班に分けて、各班は1年間、祭りの亭前をとる。一人ずつ総代を選出して、神社の世話をする。任期は2年で、適当な年代(50代以上?)のいない班では、何期も留任。各班の戸数は、最大22戸から13戸までまちまちであるが、これは従来の親戚・縁戚関係でそうになっている。

神輿巡行の順序

追波公民館→神社奥の院→神社境内(祈祷)→大岩二丁谷地橋(上村境)→斎藤雄弥宅(神社総代一班)→月浜第一水門(新設神楽奉納)→丸山橋(新設神楽奉納)→藤原強宅(契約会長)→佐々木末雄宅(旧家)→佐々木雄一宅(神社総代二班)→佐々木庄次宅(神社総代長三班)→千葉五郎宅(旧家)→佐々木勝典宅(部落会長)→佐藤美和宅(神社総代四班)→佐藤直彦宅(神社社守)→佐藤嘉信宅(神社山守)→館田元幸宅(神社総代五班)→原地区(下村境)→神社境内(神輿納め)

【神社除草作業】6月頃

氏子総代5名の総代で実施。

【秋季例祭】平成20年11月3日

祭りはお神酒献納と公民館での直会のみ。その後、氏子総代会と追波部落会の役員会で、神楽や芸能祭(カラオケ・踊りなど)はしないで、午後からグランド・ゴルフ大会。

【正月飾り】12月中旬

ヨシ門松班・茅の輪飾り班・青年部による注連縄飾り付け・婦人部による絵馬奉納準備

【新年祈願祭】平成21年1月1日

午前零時を期して氏子の一年の無事を祈願。その後お神酒の振る舞い

【アボヘボの会】

追波地区釣石神社氏子会有志が会員となり『追波アボヘボの会』（会長 A 氏）を組織、毎年小正月の時期に、受験生を励ます意味で神社境内に飾り付け。

その後の状況

平成23年は、春季例祭が中止されたが、平成24年に向けて行う方向性で話がでている。担ぎ手や巡行をどうするかなど課題も多いのが現状である。他県からのボランティア活動や神社の支援により、水たまりで神社の境内にさえ踏み込むことさえできなかった土地の整備が進み、仮社務所をプレハブで建て、注連縄の張り替え、茅の輪の設置、門松の設置も行われた。今年の正月はテレビに取り上げられたこともあり、例年程度の参拝客を迎え入れている。

被調査者の被災状況

地震当日自宅で太陽光発電システムの設置について業者と打ち合わせ中義理の両親3人が地震に遭遇。津波という意識は全く無く家を点検。縁側から庭先を見ると、車2台が猛スピードで上流側に押し流されて行くのを見て、津波だとわかる。旧宅側の扉から一気に水が押し入り、茶の間の天井まで押し上げられて、息が出来ず、海水を飲みこむ。運よく外に押し流される。旧宅がふわりと浮きあがって漂い流れだす。前後から押し寄せる木材の山に飲み込まれないように、体を水面に浮かせる。必死に国道398に泳ぎ着き追波地区の住宅側はすべて流されて家があちこちに浮かぶ。

第二波が押し寄せて来る。2本のガードレール間に太い角材が挟まれた場所を見つけたので、その材木と2本のガードレールとポールで身を守るようにして、ガードレールにしがみ付いて、津波をやり過ごす。第二波が去ってみると、道路の舗装ごとガードレールももぎ取られる。その後波に飲み込まれ気を失う。

そのとき自宅にいた義理の母と北上総合支所で働いていた妻を亡くす。現在義理の父親が仮設住宅で、本人は流失した上に昔使っていた牛舎を改良し、別邸として使用して暮らしている。